



特集

RSNA 2013

— The Power of Partnership —



第99回北米放射線学会 (RSNA 2013) が、2013年12月1日 (日)～6日 (金)、米国イリノイ州シカゴ市のマコーミックプレイスを会場に開催された。今回のRSNAのテーマは、“The Power of Partnership”。このテーマの下、6日間にわたり行われた世界最大規模の放射線医学の学術集会には、例年どおり、Plenary SessionsやRefresher Course, Scientific Presentation, Education Exhibitなどのプログラムが設けられ、5万4008人が参加した。また、最新技術・製品が披露されるTechnical Exhibitには662社が出展。参加者の注目を集めるモダリティが数多く登場した。なお、Technical Exhibitは、1月号別冊付録『RSNA 2013 ハイライト』、インナビネット「RSNA 2013 スペシャル」(<http://www.innervision.co.jp/report/rsna/2013>)も、併せて参照されたい。

協同・協力・協調の重要性を訴えるRSNA

RSNA 2012では、“Patients First (患者第一)”がテーマに掲げられたが、患者中心の医療を実現するためには、放射線科医と放射線治療医、他科医師、診療放射線技師などの医療者間の協同・協力・協調によるチーム医療が重要である。また、医療者と患者間のコミュニケー

ションも必須である。このような観点から、2013年のRSNAでは、“The Power of Partnership”がテーマとなった。本テーマには、国際間のつながりの大切さも込められている。RSNAは年々規模を拡大しており、会員数は2013年12月の時点で5万3031人となっている。北米が3万8643人で最も多く、以下、欧州が6289人、アジアが3382人、南米が3307人、オセアニアが819人、アフリカが591人と全世界に会員が存在している。RSNA

2013は、これらの会員が力を合わせて放射線医学の発展に取り組む場としても位置づけられた。

初日の12月1日には、恒例のOpening Sessionが設けられた。この中で、大会長を務めるスタンフォード大学放射線腫瘍学教授のSarah S. Donaldson, M.D.は、“The Power of Partnership”をテーマにしたPresident’s Addressを行った。Donaldson大会長は、自身の経験を紹介しながら、医療者間、そして



大会長の
Sarah S. Donaldson, M.D.



特別講演を行った
Damian E. Dupuy, M.D.

Magna Cum Laudeに3題、Cum Laudeに4題が選出された(58ページ参照)。

Technical Exhibitには 662社が出展

RSNAで最も賑わう Technical Exhibitは、2008年から South Building (ホールA)、North Building (ホールB)、Lakeside Center (ホールD)の3会場で行われていたが、今回は、ホールAとBの2か所に戻った。出展企業数は662社で、このうち104社が初出展であった。展示面積は、43万7675平方フィートとなっており、2会場になったため、前年より縮小している。

しかしながら、展示内容は、ハイエンドクラスのCTやデジタルPET/CTなどの革新的な技術を採用したモダリティが登場しており、話題となっていた。日本企業も大手モダリティメーカーを中心に展示しており、さらに今回は、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)がJapan Pavilionを出展し、ブース内では日本企業6社が展示を行った。

◎

5万4008人が参加したRSNA 2013であったが、この数字は前回から微増したものの、2008年のリーマンショック以降、

6万人を下回る状況が続いている。世界の経済情勢の行方が気になるころだが、今回は100回目という記念大会となるだけに、今まで以上に活気あふれるマコーミックプレイスとなることを期待したい。RSNA 2014は、ミシガン大学ヘルスシステムのN. Reed Dunnick, M.D.を大会長に、11月30日(日)～12月5日(金)の日程で、マコーミックプレイスを会場にして行われる予定である。“A Century of Transforming Medicine”をテーマに、次の100年に向けた第一歩を記す大会となるであろう。

患者とのパートナーシップの重要性を訴えた。続いて用意された特別講演では、ブラウン大学放射線科教授、ロードアイランド病院がん診療部長のDamian E. Dupuy, M.D.が登場した。Dupuy, M.D.は、“Annual Oration in Diagnostic Radiology: We Must Stand on the Shoulders of Giants”をテーマに、アイザック・ニュートンの“Standing on the shoulders of giants”を引用し、医療者が協力し合いながら低侵襲、低コストのがん診療をめざすべきという考えを示した。

日本から発表の3題が Magna Cum Laudeを受賞

会員数の増加に伴い、応募演題数も

増えているRSNAであるが、今回は Scientific Presentation (PapersとPosters)に7693題、Education Exhibitに5459題の応募があった。応募テーマを領域別に見ると、Scientific Presentationでは、Neuroradiology/Head and Neckが973題で最も多く、次いでGastrointestinalが964題、Vascular and Interventionalの687題の順となっている。一方、Education Exhibitでは、最も多いのがNeuroradiologyで825題、そしてGastrointestinalが788題、Musculoskeletalが668題と続く。

このうち、Scientific Paperが1839題、Scientific Posterが936題、Education Exhibitが2223題採択された。12月4日には、Education Award Winnersが発表され、日本からの発表(留学者含む)では、



会場のマコーミックプレイス



賑わいを見せる Lakeside Learning Center



Technical ExhibitのSouth Building会場



Technical ExhibitのNorth Building会場